

サポ通

サポ通は、認定NPO法人さばえNPOサポートが自主発行している機関紙です

さばえNPOサポート通信

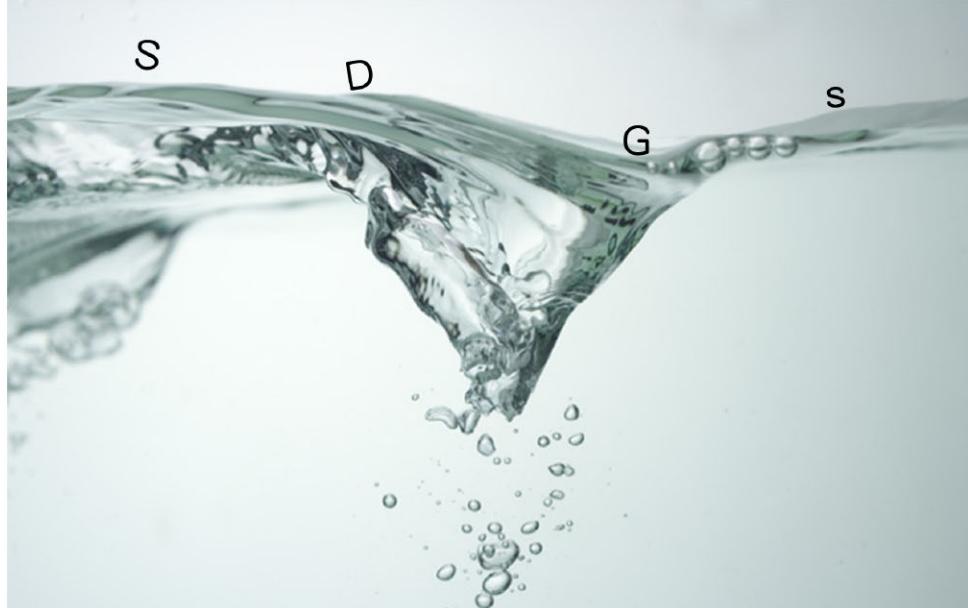
Vol.39 & 40 合併号

発行日 ■ 2022年03月31日

発行 ■ 認定NPO法人

さばえNPOサポート

編集 ■ 広報委員会



～「SDGs」を通行手形にしないために～

国内の多くの自治体が「SDGs未来都市」宣言を行ったり、メディアでも頻繁に取り上げられるようになった言葉「SDGs」(エスディージーズ=持続可能な開発目標)。

SDGsそのものは、2015年に国連総会にて採択された国際目標で、国連での採択当初は外務省や一部の市民活動団体が普及・啓発に力を入れており、「やっと自治体での取り組みまでこぎつけたか」との感があります。

これまで、行政が唱えてきた言葉には、「協働」・「新しい公共」・「市民活躍」などもありました。

これらの言葉は、もともと市民活動団体が唱えていたものを、行政が(行政の視点で)取り入れ、再解釈し、制度・政策化して普及させた側面もあります。

しかしながら、現在ではこれらの言葉を見聞きすることは本当に少なくなりました。(概念として普遍化し、発展的に別の用語になっているのであれば良いのですが)

少し意地悪な見方かもしれません、行政の場合、様々な企画を提案する場合に、それらの言葉を入れておくことで、「企画が市民目線」であることを行政機構内でアピールでき、予算を獲得しやすくなるのでしょうか。

市民活動の中で「協働」・「新しい公共」・「市民活躍」は決して死語ではなく、事業企画時の概念として活きています。

SDGsは、目標達成を2030年としています。

また、行政だけが旗を振っていて(あるいは笛を吹いて)達成できるものではありません。

行政の中で、「SDGs」が『いつの間にか隣に追いやられたり、埃をかぶっていたり』と言うことがないよう…また、予算獲得の「通行手形」や「免罪符」としての意味だけの“薄っぺらい言葉”にしないために、今問われているのは、私たち市民ひとりひとりの関心なのかもしれません。

今回の「サポ通」では、最近何かと耳にすることの多くなつた「SDGs」について
市民活動や、生活者・市民の視点から“やんわり”と読み解いてみよう思います。
3人のライターによるリレーで綴る紙面をお楽しみください。

～市民活動目線で「SDGs」を考える～

SDGs…世界的に活動が進められている「持続可能な開発目標」。

貧困、紛争、気候変動、感染症、資源の枯渇…これまでになかったような重層的な課題に直面し、以前の生活や産業を見直さずに継続していくには、人類が安定してこの世界で暮らし続けることが出来なくなってしまうと言われています。

いえ、人類だけではなく、他の動植物やそれを育んできた環境そのものも消えてしまうだろうと。

世界で…と大きくするとピンとこないかもしれません、もしかすると今住んでる地域で、近い将来暮らし続けることが出来なくなってしまうという可能性も否定できません。

そうならないために私たちは何を見つめて、何をすればよいのか？

今回あくまで私見ではありますが、一市民としてSDGsと私たちの関わりについて考えてみました。



■出来ることから繋げよう!

SDGsが定める目標は全部で17あります。

驚くべきことに、その全ての目標が、2030年に達成されることがSDGsの「ゴール」なのです。

そう考えただけで、気が遠くなりそうな人もいるのではないか？

「神様でもないのに、そんなこと…」

その意見にはまったく同感です。

おまけに、ひとつひとつの目標を成し遂げるために、「何か新しいアクションを起こさないといけないの？」「新たな団体を立ち上げないといけないの？」…そんな風にイメージしがちになるかもしれません。

確かに、新たなアクション、団体立ち上げも必要かと思いますが、そのためには、まず莫大なエネルギー（人材・時間・財産）が必要になってくるのではないか？

この莫大なエネルギーを負担したまま走り続けることが可能なのか？ エネルギーの蓄えはいつまでもつかないのか？

…それこそ「持続可能」の視点から考えると不安になります。

そこで思ったのが、今、自分たちが活動している団体が行う事業や活動を「あらためて見つめなおしてみる」という方法です。

SDGsの目標は17もあるのだから、「どれか1つでも当てはまればもうけもん！」だし、さらにアレンジを加えて複数の目標に貢献できるのなら、十分やりがいのあるプロジェクトですよね。

もちろん新たなアクション、団体立ち上げが決してイケナイと言う意味ではありませんが、既存のものを見直し、手を加えることで継続的に未来が変えられるのなら、ある意味“理想的”だと思います。

■大きな心で受け止めよう!

現在SDGsを推進中の企業や団体は数多くありますが、そうした中で今までの“常識”とはかけ離れた思想や表現、アクションに遭遇して、戸惑ったり、理解に苦しむという場面があるかもしれません。

「慣例にはなかった」「効率が落ちる」「それをする意味がワカラナイ」などなど…自分が持ち合わせていなかった価値観には、いつでも心を揺さぶられるものです。

でも、あくまでもSDGsの精神にのっとった思想や表現、「ふーん、そうか…。これもSDGsなんだね。」と大きな心と温かい目で見守り、また助け合いの心で手を差し伸べてみることも「アリ」かもしれません。

もちろんこれも、急に180度転換するのではなく、自分が納得出来るところ、自分でも出来そうなところから変化を受け入れていけば、その先にある可能性にも「楽しみ」が見つかるかもしれませんよ？



■「やる気」も持続可能に

目の前の目標を達成しても、その状態が恒久的に持続し、次のステップへと進むためには、何らかの分析や評価というのも大切です。

できれば自己評価をしっかりして、時には外部評価もしてもらいながら、「方向性は正しかったか?」「これから課題は?」とレベルアップできれば、それが理想です。

良い意味の「自己満足」がなくては、なかなか活動へのやる気(モチベーション)は続かないものですが、1番やる気をアップしてくれるのは、他人から褒められたり評価された時ではないですか?

そのためにも、ぜひ同じ目標に向かって頑張れる仲間を持ちたいもの。

お互いに評価し合い、褒め合い、時には反省し合って進むことで、アクションの持続力・持久力は高まります。

SDGs自体、新しい価値観のシンボル的なものかもしれません、自分にない視点からの評価は、きっと達成感やモチベーションに強いパワーを与えてくれます。

そのためにも、自分と「同じような」仲間だけでなく、「多様性(バラエティー)」に富んだ仲間とチャレンジするのも良いのではないでしょうか。



わることで推進しようとするもの。

地域に根ざした団体がSDGsのアクションを実施することで、市民社会でのネットワークが出来上がることには、それぞれの団体にとっても大きなメリットがあります。

市民の生活に密着しながら、本当の意味でのSDGsを推し進めるため、市民活動団体が行政の提示した仕組みを活用することも、重要な選択肢ではないでしょうか。



■SDGsのキーワード

「誰ひとり取り残さない」

このSDGsのキーワードは、「分断」や「効率」とは対極にある、とても味わいの深いフレーズです。

噛みしめるだけで、どこを向いて進めば良いかが分かる気がしませんか?

もし難解な数字や分析が分からなくても大丈夫。

この一言を胸に「出来ることから」「大きな心」でSDGsにチャレンジしてみましょう。



■開発目標は多いけど…

達成目標は17と多いように見えますが、逆に言えば、それだけ様々な活動や事業が、SDGsに関わっているということ。

また、地球上のどこかの地域だけ「達成した!」となっても無意味なのがSDGsでもあります。

そのため、全世界の政府や自治体も、それぞれの立場から目標達成のための行動をすることが求められています。

当然、日本も福井県も鯖江市も例外ではありません。

鯖江市では、さばえSDGs推進センターを設置して、その普及や相談窓口として機能を担っています。

また福井県の取り組みのひとつ、社会教育関係団体活性化事業として「社会教育×SDGsで地域応援プロジェクト」という事業も進められています。

このプロジェクトは、「社会教育団体が地域と連携し地域住民にSDGs達成に向けた教育を提供する活動を支援し団体の活性化を図ることを目的とする」という趣旨で、SDGsの意味や目的の普及を、市民活動団体などが関

～ホンモノの「SDGs」を見極める～

ここまでSDGsを「とにかくイイもの」として書き進めきましたが、本当に「SDGsさえ達成されれば世の中万々歳! ヒヤッホ～☆」なのかと言えば、おそらくそう単純ではないかもしれません。

■目標の対象はダレ?

17の目標は短いフレーズでわかりやすく表現されていますが、だからこそ、絶対に忘れてはいけないのが、目標の達成は「全世界の全ての人、環境、文化、経済圏」を対象にしてるという意識です。

つまりこれが「誰ひとり取り残さない」の意味ではないでしょうか。

例えば目標2の「飢餓をゼロに」達成のため、目の前の飢えた人に与えるため、同じように飢えた別の人の食料を融通するようなアクションは、もちろんNGですよね。

でも、全世界の流通や市場を個人でチェックは出来ない以上、知らないうちに、似たようなことの片棒を担いでしまうこともあり得るのが現実です。

■想像力と見る目を養う

残念なことに、表面的な「SDGsやってます感」をアピールし、貢献を装う「SDGsウォッシュ」と呼ばれる動きをする企業や団体もあると言われています。

小さなアクションの積み重ねが、世界規模のSDGs達成につながるのは確かでしょう。

ただ、短いスパンや狭いエリアだけのアクションには、ダマシのテクニックが入り込む余地もあります。

それを見極められる理念と眼力、そして、自分の行動が引き起こす影響への想像力…それを養うことが、もしかすると本物のSDGsの達成への近道なのかもしれません。

もちろん、それで臆病になりすぎてアクションしないのはきっと間違いですよね。

自分の身近な課題からコツコツと世界を変えていく。

それが市民目線でSDGsに参加する王道なのは間違いないはずです。

まだまだ未熟な人類の、現時点での進歩の答え、それがSDGsだと信じて1歩踏み出してみましょうか!



鯖江の市民活動情報ブックレット

OSANPO

発刊!!

～10歩目～

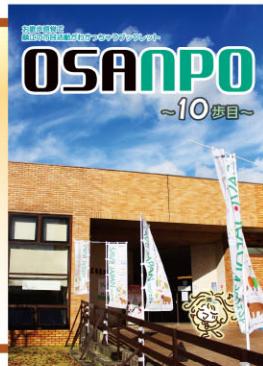
■A4版・20頁・総天然色

■ご希望の方は「さばえNPOセンター」まで(無料)

■PDF版も公式サイトで公開中!!

【紹介団体】鯖江市PTA連合会／非営利団体アースファムふくい

【他】コラム／SAVE JAPANプロジェクト／サバヌシ総会2022 など



広報サポート募集中!!

★簡単なお手伝いでもOK。個性的な仲間が揃っています☆
詳しくは、さばえNPOサポート事務局・松田まで。

編集・お問い合わせ

認定NPO法人 さばえNPOサポート

〒916-0024

福井県鯖江市長泉寺町1丁目-9-20 鯖江市民活動交流センター内

TEL:0778-54-7055 FAX:0778-54-7058

【メール】info@sabae-npo.org

【ホームページ】http://www.sabae-npo.org